

第15回全国高等学校情報教育研究会 全国大会(オンライン大会)の報告

1. はじめに

8月9日(火)、10日(水)の2日間、第15回全国高等学校情報教育研究会¹⁾全国大会(オンライン大会)が、文部科学省や複数の県教育委員会、全国専門学科情報科高等学校長協会などの後援と多数の加盟研究会・部会からの協賛を受けて、工学院大学との共催でオンライン開催された。

今年度は、工学院大学新宿キャンパスにてパブリックビューイング(事前申込制)会場の提供があり、新型コロナウイルス感染症への対策を取りながら、交流の機会を確保する試みが行われた。

本大会には、8月10日時点で昨年以上の460名の申し込みがあり(主催者発表)、情報Ⅰのスタートで関心が高くなっている様子が見ええた。

2. 大会概要

【テーマ】教科「情報」第3ステージ

～「情報Ⅰ」の実践～

【日時】8月9日(火)10:30～10日(水)15:30

【会場】オンライン開催・工学院大学新宿キャンパスでのパブリックビューイング

【主催】全国高等学校情報教育研究会

【共催】工学院大学

【後援】文部科学省 他

【大会 URL】<https://www.zenkojoken.jp/15online/>

【プログラム】

○8月9日(火)

10:30～ 開会行事(開会挨拶他)

11:00～ 基調講演

講演者：中山 泰一 氏

電気通信大学大学院 情報理工学研究科 教授
演題：「情報Ⅰ，情報Ⅱ，そして情報入試
～全高情研とともに～」

12:10～ 休憩・企業動画

13:30～ 分科会発表①，②

分科会は3会場に分かれ2件ずつ実施
1件につき発表20分 質疑応答5分

14:30～ 企業動画

15:00～ 分科会発表③，④

○8月10日(水)

9:30～ 分科会発表⑤，⑥

10:30～ ブレイクアウトルームによる
ポスターセッションおよび企業展示

11:30～ 休憩・企業動画

13:00～ 分科会発表⑦，⑧

14:00～ 講評・講演

講演者：田崎 丈晴 氏

国立教育政策研究所 教育課程研究センター
研究開発部 研究開発課 教育課程調査官

15:00～ 閉会行事

3. 大会の様子

(1) 分科会発表(ライブ発表)

2日間にわたり3つのオンライン会場に分かれて、23件の発表が行われた。3つの会場は内容によって、情報デザイン・メディア関係、プログラミング・データ活用関係、授業設計・評価関係に概ね分けられ、分科会発表④には若手枠の発表も設けられた。

昨年度よりも発表数が増え、高校での実践発表的なものだけでなく、大学教員が関係する研究的な発表もあった。プログラミングやデータ活用に関連する発表が11件と最も多く、情報デザインやメディアなどに関連する発表は5件あった。また、「情報Ⅰ」というキーワードが入っている発表も5件あり、情報Ⅰの実施を意識した発表が多かった。

(2) 動画による発表(オンデマンド発表)

事前に収録した動画によるオンデマンド発表も15件あった。プログラミングやデータ活用に関連する発表が最も多く、こちらでも情報Ⅰの実施を意識した発表が多かった。

(3) ポスターセッション／企業展示

4件のポスターセッションと7件の企業展示が行われ、参加者は適宜ブレイクアウトルームを移動して発表を聞いた。ポスターセッションでは、分科会

よりも発言しやすいこともあり、かなり盛り上がったところもあったようだった。企業展示では、企業担当者による商品やサービスについての説明が行われ、質問なども気軽にできた。

(4) 企業動画

分科会発表の合間に、企業からの動画が流された。約 90 秒程度のものであるが、授業の参考になる情報も多かった。Web サイトでは、現在も 8 本の企業動画が公開されている。

(5) 基調講演

中山泰一氏は、大学でも情報科教育法の講義を担当されており、以前から高等学校の情報科に強い関心を持たれている。講演は、自身が高校の情報科に関わるようになった経緯などから始まり、情報処理学会で高校教科「情報」シンポジウム（「ジョーシン」）を開催する中で、情報入試の普及のために「情報入試研究会」を設立されたことや、大学情報入試全国模擬試験を実施されたことなどについて話された。そして、大学入学共通テストに新教科として「情報」が導入されるまでの経緯や、情報科の教員採用が進まずに臨時免許状や免許外教科担任が多用されていることなどについて、様々な資料を示しながらお話しになった。

最後に、小中高校から大学まで一貫した情報教育の体系的なカリキュラムをすすめる、個人が「情報活用能力」を適切に身につけていることが文系理系を問わず大切であること。そのためにも、専門性の高い情報科教員養成のための継続した取組が必要であり、情報科の教員研修を都道府県の枠を越え、大学や学術団体とも連携しながら実施していくことが重要であることを強調し、講演をまとめられた。

(6) 講評・講演

田崎丈晴氏からの講評・講演では、はじめに、パブリックビューイング会場で、久しぶりに先生方と交流ができたことやオンライン開催による参加のしやすさなどについて感想を述べられた。新学習指導要領の実施を迎え、今の時点での取組の成果・課題を共有していただいたので、2 学期からの授業実践に生かしてほしい。と話された。

そして、高校 3 年間を見通した情報科の指導計画の教育課程への位置づけの他にも、情報活用能力が学習の基盤としての資質・能力の 1 つとして位置づけられたことにより、学校全体でどう育成し、いか

に具現化していくのかというところでは、情報科教員への期待は大きい。情報Ⅰや情報Ⅱの学びが、高等学校における情報活用能力の育成の中核を担うためには、これらの科目を何年に置いたらいいのか議論する必要がある。他の各教科・科目等と相互に関連を図ること、他の各教科・科目等においても積極的に実施していくことをどのようにして実現していくのかという構想を作り、校内で提案していくことがとても大事である。とお話しになった。

また、観点別学習状況の評価について、努力を要する状況 C の生徒がいた時には、おおむね満足できる状況 B にするための手立てを考え、生徒に働きかけなければいけない。これが徹底されればオール B になる。評定 1 や評定 2 というのは、この辺りの指導が十分ではなかったとみることができる。評価の仕方については、学校の中で十分議論していただきたい。とまとめられた。

4. 大会資料について

大会は終了したが、大会サイトでは、引き続き動画発表等を視聴することができる。動画や資料などは、少なくとも今年度末まで掲載されているとのことである。参加申込が必要なものもあるが、今からでも申込可能なので、ぜひ申込をして視聴してほしい。なお、Amazon から資料集の購入も可能である。大会サイトにリンクがあるので参照してほしい。

5. おわりに

来年度の第 16 回大会は、現在のところ今年度と同じような形式で開催される予定とのことである。コロナ禍が続く中で、研修や研究会の在り方も変化してきた。オンデマンド研修やクラウド上での教材の共有なども加速していきそうである。情報Ⅰがスタートし、情報科の教育を進めていくためには、全国の先生方の実践や研究を共有していくことが重要であり、この全国高等学校情報教育研究会が果たす役割もますます大きくなると思われる。まだ参加したことのない先生方は、ぜひ大会サイトにアクセスして、その熱量を感じていただきたい。

参考文献

- 1) 全国高等学校情報教育研究会, <https://www.zenkojoken.jp>